



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。

全米輸案内

2026

(令和8年1月30日版)

一般社団法人 全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会

全米輸について

1. 名 称 一般社団法人 全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会
2. 設 立 平成 27 年（2015年）8 月 13 日
3. 所在地 東京都中央区日本橋小伝馬町 1 5 - 1 5 食糧会館 6F
4. 代表理事 木村 良 （きむら りょう）
5. 会員数 106会員（令和8年1月30日現在）
6. ホームページ <https://zenbeiyu.com/jp/>
7. 事務局 電話番号：03-5643-1720 FAX：03-5643-1721
メールアドレス jimukyoku@zenbeiyu.or.jp

8. 目 的

- (1) 我が国の良質な米・米関連食品の海外での需要の開拓・拡大を図り、世界のマーケットに届けるため、オールジャパンで取り組むべき共通課題の洗い出し・解決に向けた協力体制を構築すること。
- (2) 米、米関連食品輸出の拡大を通じて、我が国のコメ生産者の所得向上に資すること。
- (3) 米、米関連食品の輸出拡大に向けて、協議会会員間の相互の情報収集、共有を通じ、各種連携を促進し、必要に応じて輸出事業の共同展開に資すること。

<会員 一覧>

■全会員 106社（正会員 67社、賛助会員 39社）

米 （62）	
1	アイリスオーヤマ株式会社
2	秋田なまはげ農業協同組合
3	株式会社いつみ家
4	伊藤忠食糧株式会社
5	株式会社大潟村あきたこまち生産者協会
6	木徳神糧株式会社
7	株式会社クボタ
8	ごしょつがる農業協同組合
9	有限会社小柳農園
10	有限会社斎藤農場
11	株式会社3181
12	庄内みどり農業協同組合
13	JA全農インターナショナル株式会社
14	食協株式会社
15	株式会社食創
16	株式会社ショクレン北海道
17	株式会社神明
18	全国農業協同組合連合会
19	全国米穀販売事業共済協同組合
20	千田みずほ株式会社
21	株式会社相馬屋
22	株式会社種商
23	株式会社ツナギ
24	出羽弥兵衛株式会社
25	東洋ライス株式会社
26	豊通食料株式会社
27	株式会社名古屋食糧
28	株式会社八代目儀兵衛
29	㈱パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス
30	株式会社百笑市場
31	ホクレン農業協同組合連合会
32	株式会社松原米穀
33	株式会社丸屋本店
34	株式会社ミツハシ
35	三菱商事株式会社
36	みな穂農業協同組合
37	大和産業株式会社
38	ライスフレンド株式会社
39	株式会社ヴォークス・トレーディング（賛助）
40	株式会社HSS（賛助）
41	株式会社Onigiri&Co.（賛助）

米	
42	一般社団法人おにぎり協会（賛助）
43	カネシメホールディングス株式会社（賛助）
44	河内町認定農業者協議会（賛助）
45	北つくば農業協同組合（賛助）
46	株式会社吉兆楽（賛助）
47	九州農水産物直販株式会社（賛助）
48	cool-japan株式会社（賛助）
49	くりや株式会社（賛助）
50	一般社団法人高機能玄米協会（賛助）
51	ジョイントファーム株式会社（賛助）
52	株式会社隅田屋商店（賛助）
53	双日農業株式会社（賛助）
54	一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会（賛助）
55	株式会社農村日和（賛助）
56	株式会社馬場園芸（賛助）
57	株式会社宝生倉庫（賛助）
58	みやぎ登米農業協同組合（賛助）
59	みらい米市場株式会社（賛助）
60	株式会社むらせ（賛助）
61	株式会社MOST（賛助）
62	ヤンマーマルシェ株式会社（賛助）

日本酒 （16）	
1	天吹酒造合資会社
2	尾畑酒造株式会社
3	菊正宗酒造株式会社
4	黄桜株式会社
5	株式会社木村酒造
6	小西酒造株式会社
7	コンタツ株式会社
8	玉乃光酒造株式会社
9	長龍酒造株式会社
10	日本盛株式会社
11	人気酒造株式会社
12	白鶴酒造株式会社
13	ナオライ株式会社（賛助）
14	中埜酒造株式会社（賛助）
15	株式会社福光屋（賛助）
16	株式会社安福又四郎商店（賛助）

米 菓 （9）	
1	合同会社UNCLE MOCHI
2	岩塚製菓株式会社
3	越後製菓株式会社
4	酒田米菓株式会社
5	全国米菓工業組合
6	株式会社鳴海屋
7	みやぎのあられ株式会社
8	森白製菓株式会社
9	株式会社ジャパン・ファームプロダクツ（賛助）

包装米飯 （4）	
1	株式会社ウーケ
2	株式会社ニチレイフーズ
3	一般社団法人全国包装米飯協会（賛助）
4	株式会社プリミティブ・ドライブ（賛助）

米粉・米粉製品 （6）	
1	群馬製粉株式会社
2	小林生麺株式会社
3	株式会社波里
4	株式会社RICE ENTERTAINMENTS
5	熊本製粉株式会社（賛助）
6	株式会社ムシロジックホールディングス（賛助）

その他 （9）	
1	株式会社エス
2	元気寿司株式会社
3	バナソニック株式会社
4	株式会社サタケ（賛助）
5	GFサポート株式会社（賛助）
6	鈴茂器工株式会社（賛助）
7	対馬水産株式会社（賛助）
8	株式会社プレナス（賛助）
9	株式会社フランクジャパン（賛助）

「農林水産大臣認定品目団体」

全米輸は、令和4年12月5日付で、農林水産大臣より輸出促進法に基づく「認定農林水産物・食品輸出促進団体（認定品目団体）」として認定されました。また、12月14日には、農林水産大臣から認定証の授与が行われました。

この認定を契機に、更なる日本産コメ・コメ関連食品の輸出拡大に努めて参ります。

農林水産省認定プレスリリース



(写真：農林水産省提供)



岸田総理大臣(当時)



野村農林水産大臣(当時)



農林水産大臣から認定証を授与される木村理事長（中央）



全米輸事業について

全米輸では、前記の目的を達成するため、次の事業を実施しています。

- (1) プロモーション及び商談会等の実施を通じた日本産コメ・コメ関連食品の海外需要開拓
- (2) セミナーの開催等を通じた海外・輸出についての情報発信

入会について

1. 入会のメリット

会員のコメ・コメ加工品の輸出拡大を支援するため、以下の取組を実施いたします。

- (1) 全米輸が実施する海外でのプロモーション事業等への参加 (正会員)
- (2) 専門家による輸出関連相談対応 (正会員・賛助会員)
 - ・全米輸が契約した輸出に関する専門家をご相談に応じます。
- (3) 全米輸が主催するセミナー(市場の状況、対応策等)への参加 (正会員・賛助会員)
 - ・全米輸事業で収集した海外情報(コメ・コメ関連食品の海外規制の状況、市場の動向)等、会員の輸出拡大に有効となるオンラインセミナーを実施します。
 - 【2024年度のセミナーテーマ】
 - 「米国FDAの申請手順」角埜漠様(A Knots 株式会社)
 - 「EUにおける食品包装規制ならびに今後の規制強化への対策」角埜漠様(A Knots株式会社)
 - 「パックご飯の市場開拓実証について」高橋絵美様(株式会社アスマーク)
 - 「レストラン検索サイト事業(シンガポール)」長谷川謙司様(株式会社For Bridges)
 - 「レストラン検索サイト事業(香港)」岡崎宏昭様(株式会社JTB)、杉内馨様(Umai Communications Limited)
 - 「海上輸送時の湿気ダメージの原因と対策」牧島悠様(鈴与商事株式会社)
 - 「香港における日本食品の市場性と広域経済圏への波及効果」伊東正裕様(香港貿易発展局)
 - 「ITによる新しい食品輸出」松原壮一朗様(umamill株式会社)
- (4) 会員専用ホームページでの情報共有 (正会員・賛助会員)
 - ・会員専用ホームページにて、以下の情報発信を行います。
 - 専門家による海外マーケットについてのレポート(コメ・コメ加工品に特化した情報発信)
 - 最近のコメ・コメ加工品の規制改正の情報
 - 過去の事業実施結果の紹介 等
- (5) 輸出PR用のロゴマーク、PR用冊子、写真・動画等の提供 (正会員・賛助会員)

2. 会員の種類・年会費・事業参加負担金

- (1) 正会員 : 年会費 15万円、事業参加負担金 1事業参加につき20万円
- (2) 賛助会員 : 年会費 3万円
- (3) 名誉会員 : 年会費 なし ※名誉会員は理事長の推薦による法人、個人

3. 入会手続き

入会をご希望の場合、**入会申込書及び会社概要、国別輸出実績をご提出いただきます。**

書類の受領後、理事会での承認を経て入会となります。**正式な入会**は、**会費の納入を確認した時点**となります。

これまでの主な取組成果（令和6年度事業）

全米輸では、日本産コメ・コメ加工品の輸出拡大のため様々なプロモーション・海外市場調査等を実施しています。令和6年度は、主なものとして以下のような事業を実施しました。

①アメリカ展示会(WFFS2025)



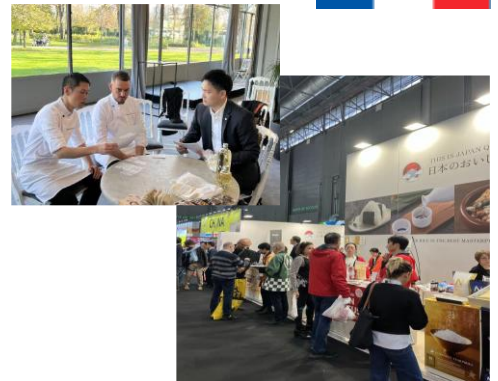
- 毎年冬に、ラスベガスを始めとしたアメリカ西海岸の主要都市で開催されている、北米西海岸最大規模の高級食品見本市に、全米輸独自のブースで参加。
- 3日間の開催。1,000以上の世界の企業・団体が出展し、10,000人以上のディストリビューターなどが参加。
- 19会員が出展し、2億円規模の商談成約結果となった。



②フランス展示会(SIAL Paris2024)



- フランスのバリで開催。2年に一度、ドイツ(ケルン)での開催と交互に開催される、ヨーロッパ最大の食品見本市に、全米輸独自のブースで参加。
- 5日間の開催で、7,000以上の世界の企業・団体が出展し、30万人近い輸入関係者が参加。
- 15会員が出展し、2億円弱の商談成約結果となった。



③メキシコにおけるコメ、コメ関連食品プロモーション



- 2023年に日本からの精米輸入が解禁され、日本食への関心の高まっている中、現地の輸入関係者10数社に対して、日本産のコメ、コメ関連商品に関する、セミナー、ワークショップ、試食を通して、全米輸主催の商談会を開催。
- 8会員が参加し、7千万円規模の商談成約結果となった。



④ アラブ首長国連邦におけるコメ、コメ関連食品プロモーション



- 日本食レストラン数が増加しているなど、日本食への関心の高まっている中、現地のディストリビューター等に対して、訪問商談や、20社程度を対象に、日本産のコメ、コメ関連商品に関する、セミナー、ワークショップ、試食を通して、商談会を開催した。
- 9会員が参加し、1億円規模の商談成約結果となった。



⑤ 英国向け日本産コメ・コメ加工品輸出支援事業



- 英国のCPTPP加入により関税撤廃となるコメ・コメ加工品の輸出拡大を目指し、現地の輸入関係者50社程度を対象にした、日本産のコメ、コメ関連商品、日本式カレーに関する、セミナー、ワークショップ、試食を通して、商談会を開催した。
- 7会員が参加し、3千万円規模の商談成約結果となった。
- 当事業はJETRO及び、認定品目団体であるカレー工業組合様との連携事業として実施した。



⑥ 米国における日本産コメおよび日本産水産物プロモーション



- アメリカの東西に比べて手薄な中南部への輸出拡大を目指し、現地のディストリビューター等50社程度を対象に、日本産のコメ、コメ関連商品及び日本産養殖魚類(ぶり、たい)に関する、セミナー、ワークショップ、試食を通じた商談会をヒューストンとマイアミの2都市で開催。
- 加えて消費者向けのPRとして、小売・外食店での販促キャンペーンも行った。
- 10会員が参加し、約5千万円規模の商談成約結果となった。
- 当事業はJETRO、JFOODO及び、認定品目団体日本養殖魚類輸出推進協会様との連携事業として実施した。



令和7年度 主な実施予定事業

(1) アメリカ展示会(WFF)



- 3日間で、1,000以上の世界の企業・団体が出展し、10,000人以上のディストリビューターなどが参加する、北米西海岸最大規模の高級食品見本市に、これまで同様、全米輸独自のブースで参加。
- 2026年1月、サンディエゴで開催。

(2) アメリカ展示会(SFFS)



- 上記と同レベルの東海岸最大規模の見本市。3日間で、2,000以上の世界の企業・団体が出展し、30,000人近い来場者が見込まれる。今年度初参加となり、全米輸独自のブースで参加。
- 2025年6月、ニューヨークで開催。

(3) ダラスにおけるコメ、コメ関連食品プロモーション



- アメリカ中部開拓の位置づけで、中部の輸入関係者が多く拠点を構えていると言われているダラスで実施。セミナー、ワークショップ、試食も合わせての商談会を開催。
- 2025年10月実施。

(4) ドイツ展示会(ANUGA)



- 昨年のフランス(パリ)でのSIAL Parisと一年ごとに交互で実施するヨーロッパ最大の見本市の一つに全米輸ブースで参加。
- およそ7,900社近くの企業・団体が参加し、およそ14万人が来場。
- 2025年10月、ケルンで開催。

(5) イギリスにおけるコメ、コメ関連食品プロモーション



- CPTPP加入による関税撤廃をきっかけとしたコメ・コメ加工品の輸出拡大を目指し、現地ディストリビューター等を対象に、セミナー、ワークショップ、試食と合わせた商談会を開催。
- 2025年9月、ロンドンで実施。

(6) メキシコにおけるコメ、コメ関連食品プロモーション



- 現地でのコメ・コメ関連食品の輸出拡大を目指し、現地ディストリビューター等を対象に、セミナー、ワークショップ、試食と合わせた商談会を開催。
- 2025年8月、メキシコシティで実施。

(7) アラブ首長国連邦におけるコメ、コメ関連食品プロモーション



- 現地でのコメ・コメ関連食品の輸出拡大を目指し、現地ディストリビューター等を対象に、セミナー、ワークショップ、試食と合わせた商談会を開催。
- 2025年12月、ドバイで実施。

(8) 中国におけるコメ、コメ関連食品輸出の可能性調査 及び食品見本市(FHC)への出展



- 日中関係が低迷していたここ数年の間に中国市場においてのコメ、コメ関連商品市場にどのような変化があったか、どのような商品・メッセージが効果的であるかを探り、直後の見本市と中国市場への市場開拓に活かす。
- 2025年11月、上海FHCに出展。3,000以上が出展し、18万人以上が来場。

(9) 日本産ロゴマークの認知拡大調査事業(香港)



- 右の全米輸の『輸出促進統一ロゴマーク』を、現地で販売するコメ、コメ関連商品上で表示することで、認知・理解を高めることを目指し、事業効果測定のための調査も行う。
- 2025年夏・秋～年内期間に、最大輸出先である香港での販売商品を対象として実施。



**JAPAN RICE AND RICE INDUSTRY
EXPORT PROMOTION ASSOCIATION**

＜お問い合わせ窓口＞

全米輸では、今後も日本産コメ・コメ加工品の海外需要開拓のために様々な事業を実施予定です。

この事業案内及びご入会についてのお問い合わせは、
以下の窓口までお問い合わせください。

電話：03-5643-1720 メール：jimukyoku@zenbeiyu.or.jp

担当：細田・仲地・田中